

パース日本人学校学習発表会における挨拶

おはようございます。在パース日本国総領事の内藤康司と申します。
パースに着任してまだ1ヶ月です。どうぞよろしく申し上げます。

今日は、在パース日本人学校の学習発表会を大変楽しみにしてきました。というのも私自身、日本人学校の出身者です。私の場合は、タイのバンコック日本人学校でしたが、50年前の当時の40名のクラスメートとはいまだにラインでやりとりしています。国際弁護士、水族館の館長、絵本作家、電力会社、オーストラリアに移住された方もいます。

私の家内も日本人学校の派遣教員でした。南アフリカの日本人学校の先生で今も教員ですが、来年初めにパースに来る予定です。3人の子供がいますが、3人ともヨハネスブルグ、ナイロビで日本人学校に通いました。本日、1番下の長女が参加させて頂いています。家族全員が日本人学校に強い思いをもっています。

日頃の成果を発表頂くのを楽しみにしております。素晴らしい環境の中で、学んだこと、感じたことを父兄の方々、学校を支える運営委員会、そして先生方にみせて下さい。のびのびと精一杯見せていただくことを期待しています。

2週間前、岸田総理大臣がパースを訪問しました。岸田総理がアルバニー首相とキングズパークで一緒にコアラを抱っこしている写真を見たかもしれません。歓迎式典でのオーストラリアの温かい、ぬくもりのある、おもてなしでした。

今回の訪問で、日本とオーストラリアとの関係はさらに進展し、多くの保護者の皆さんが従事されているエネルギー、鉱物資源を含む経済関係や、あるいは地域の安全を守る安全保障の関係で進展がありました。

世界の中で、パースは日本にとって大切な要素が結晶のように凝縮しているからです。あたたかく、親切で、特に日本に対する尊敬の気持ちがあるオーストラリアの人々との関係は、長い間にわたる人と人との交流で培われてきたものです。

みなさんが、City Beach Primary の子供たちとの間で日々行われている交流のひとつひとつも、その大切な一部です。そして自分にとっても、毎日の暮らしの中では、気が付かないかもしれないですが、パースでの生活は、おとなになって振り返ると、一生の人生の中でも、忘れることのできない、キラキラ光る宝石のような日々になるはずです。

日本人学校で育んだ、世界から日本を見る目、感受性の鋭いみなさんの洞察力で感じたことは、必ず心の中に残り、日本に帰ってからも芽を出すでしょう。ですので、毎日毎日を得難い経験を精一杯楽しみながら、心の日記に焼きつけて頂きたいと思います。

父兄の皆様、運営委員会の皆さま、世界の中でも有数の素晴らしい学習環境を整えるために、日頃の大変なご苦勞に感謝申し上げます。本日は楽しみにしております。

令和4年11月12日